



日野地

160

光あふれる集落

松葉川温泉があることで知られている日野地の集落は窪川トンネルから県道19号線を北にむかい途中、県道322号線に乗り換え車で20分ほど上ったところにある。

集落の入口

には四万十川支流の日野地川にかかる日野地橋があり、



そのとなりには昔の名残をとどめているコンクリートの鳥居がある。これは昭和10年当時、松葉川村の名村長とうたわれた黒田豊国氏らが誘致したつり橋の鳥居だそうである。

橋を渡り日野地川を上流に沿っていくと山手側に20数軒の民家が点在する。

日野地の地名は日当たりが良いことからきていると聞いた。訪れた時間は午後であったが道沿いの民家はともかくまなく太陽を一杯浴びており納得。増水した川で人が流される

対岸の窪川中津川集落との間に

かる橋の袂に川で流された人を慰める「田井集の碑」が立っている。

昔は大雨が降ると上流から大量の材木が流れた。このためこれを取り込もうとした村人がいて流され犠牲になった人もいたようである。

昭和13年の台風による洪水で流された人が数日後に遺体で見えられたが家族は罪になることを恐れて認めなかったという。

皮膚病に効くと言われる源藏様の祠
地区の人から昔、岩崎源藏という人がいて病気に對する指導につとめ、その功績をたたえお祭りを行っている「源藏様の祠」を教えてもらった。

小さい頃には皮膚病に効いたといってお礼の赤い織がたくさん立っていたそう。今はその織も色褪せており、時のうつろいを感じさせる。

その祠は日野地橋のすぐ近くにある。

